

## 林野庁長官賞

「素材生産から製材・高次加工、建築事業まで」の一貫体制確立による  
「地域林業の活性化」をめざした取り組み  
「十和田湖スギ」へ付加価値をつける

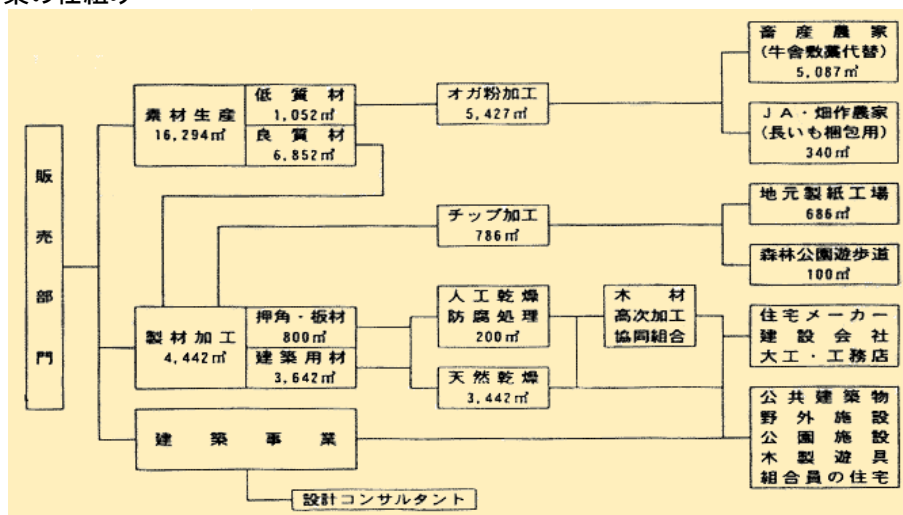
十和田湖町森林組合 （代表者 組合長理事 小笠原 恭裕（おがさわら やすひろ））

### □事業体の構成

監事 3名 理事 7名 組合長 参事 組合員 942名  
会計 2名 管理課 3名 建築事業 1名 事業課 4名 素材生産 10名  
製材加工 15名 高次加工協同組合 丸棒等加工 6名  
〒034-030 青森県上北郡十和田湖町大字奥瀬字生内268-1  
TEL 0176-72-3111 FAX 0176-72-3114



### □事業の仕組み



## 1 地域の概要

十和田湖町は、青森県の中央部を南北に走る八甲田連邦の東裾に位置しており、総面積3万7,274haのうち87%に当たる3万2,412haが森林（国有林2万4,413ha、民有林7,999ha）である。森林組合の事業が主に展開される民有林の大部分は、7齢級をピークとした若齢林分（いわゆる戦後の造林地）である。人工林率は63%であるが、うち90%をスギが占め一大造林地が形成されている。

町における年間の素材生産量は約36,000千m<sup>3</sup>である。

## 2 事業内容等

### (1) 事業の目的

設立当初は、利用事業（養苗、造林）中心の運営であったが、昭和58年をピークに新植面積が減少し始めたのをきっかけに、間伐材の付加価値を高め除間伐の促進を図る目的で、昭和59年にオガ製造設備を導入した。

以来、地域材である「十和田湖スギ」の付加価値を高めるため、「素材生産」から「製材加工」、さらには「高次加工」から「建築事業」までの一貫した生産・販売体制の確立を目指し、森林所有者の所得向上と地域林業の活性化を目的としている。

(2) 事業の内容

組合の事業の中心となっているのは販売部門であるが、「素材生産」、「製材加工」及び「建築」の三事業を密接に連携させ、生産から販売までの一貫体制を確立したことにより、徹底した事業運営の効率化を実現している。

素材生産事業は、組合の直よう労務班により年間を通じて行われているが、高性能林業機械が導入され、近代化や低コスト化が図られている。生産した原木のうち約4割に当たる7,000m<sup>3</sup>程度が組合の製材工場に納入され、住宅メーカーや設計事務所、工務店等からの受注に応じて製材加工を行っている。製材加工の過程において発生した端材はチップに、製材に適さない低質材はオガ粉に加工するなど、徹底して無駄を省き、地域森林資源の有効活用体制を確立している。

また、平成6年度に組合の出資により設立した、「十和田湖町木材高次加工協同組合」では、製材工場で生産した一次加工材のうち低規格材（押角材、板材）を中心に二次加工を行い、付加価値の高い丸棒、羽目板、フローリング等を生産し、県内外に出荷している。

(3) 施設の整備状況

目的	事業内容	施設の名称	規模	完成年月
間伐材利用	オガ粉加工	オガ粉製造機	一基	昭和59年12月
"	小径木加工	製材施設	一式	60年6月
担い手育成	研修会施設整備	林業研修センター	1棟 299.11m <sup>2</sup>	61年12月
間伐材利用	製品規格揃	横切機	一基	63年2月
"	製品(垂木類)加工	作業用建物	1棟 272.16m <sup>2</sup>	63年12月
"	丸太剥皮	剥皮施設	一基	平成1年5月
"	製品結束促進	自動結束機	一基	1年5月
高品質加工	製材加工	製材加工用建物	1棟 476m <sup>2</sup>	2年2月
"	"	製材施設	一式	2年2月
生産コスト低減	素材生産	フェラーバンチャ	一基	2年8月
高品質加工	角挽	角挽装置	一式	2年12月
"	背板処理	背板処理施設	一式	2年12月
生産コスト低減	素材生産	プロセッサ	1基	3年10月
低質材利用	オガ粉加工	オガ粉製造機	一基	4年3月
高品質加工	製材加工	ツインオートテーブル	一式	5年9月
"	"	ギャグリッパー	一式	6年12月
端材利用	チップ製造	チップ製造機	一基	7年4月
品質向上	製品乾燥	人工乾燥機	一基	7年10月
"	二面プレーナー	二面挽盤プレーナー	一基	8年4月
加工能率向上	原木自動搬入	原木自動搬入装置	一基	8年5月
生産コスト低減	素材生産	ハーベスタ	ケト-500	8年10月
品質向上	製品防腐	防腐処理施設	一基	9年3月

(4) 事業の実績

(単位：m<sup>3</sup>、千円)

種別	平成6年度		平成7年度		平成8年度	
	計画数量	実績金額	計画数量	実績金額	計画数量	実績金額
総収益	812,948	815,193	850,054	892,519	896,093	812,611
うち販売収益	530,846	496,668	537,545	620,948	589,189	558,172
素材生産	10,000	171,000	16,659	174,549	11,000	148,700
製材	4,200	4,040	7,000	4,340	5,500	4,442
オガ粉	9,000	216,000	8,123	208,259	4,560	231,000
チップ	800	766	1,000	732	850	786
その他						
合計						

住宅 公共 工事 建築 木製 遊具 その他		4棟		1棟		4棟
				2件		6件
	56,700	42,382	76,800	163,886	120,660	130,413
				6件		18件
		7件		6件		10件

(5) 事業の成果 (事業体の評価)

- ① 素材生産部門では従来の方式 (チェーンソーによる伐採、トラクターによる搬出) に代えて、高性能林業機械を導入したことにより、生産の効率化とコスト低減が実現し、生産実績は毎年増加してきている。
- ② このことにより、製材工場への原木供給が安定的となり、製材加工及び製品納入の迅速化が図られた結果、公共建築物や住宅の建築部材、野外公園施設、木製遊具施設等への製品供給が大幅に増加してきた。
- ③ さらに、高次加工協同組合を設立したことにより、製材工場での一次加工材を高付加価値製品 (丸棒、羽目板等) に加工することが可能となり、その結果、県内はもとより、県外からの引き合いも増加し、幅広い事業展開が図られるようになった。
- ④ 平成8年度からは、青森県主催の「住宅フェア」に出展し、主に県内ビルダーや一般消費者に対しての製品PRを行っているほか、日本木材総合情報センター主催の「産直資材全国展示会」にも出展し全国へ向けての販路拡大にも乗り出しており、「十和田湖スギ」製品として展示されたログハウス部材、羽目板、外壁材ベンチ等は、地域材を有効に活用していることや、高度な加工技術が需要者の高い評価を得ており、公共建築物を中心に受注が急増している。
- ⑤ 製材加工部門の発足以来、一貫して素材生産から製材加工と高次加工、さらには建築事業までの生産・販売体制の連携強化を進めてきた結果が事業実績に反映し徐々に販売事業に比重が移行してきており、平成8年度には総収益に占める販売収益の割合が68.7%を占めるまでとなった。

(6) 今後の取り組み

地域に多量に賦存し、生産量が増大しつつあるスギ資源を有効に活用しながら、地元への還元により地域林業の活性化を図っていくため、今後とも高次加工による高付加価値製品の生産推進に取り組んでいく必要がある。

当森林組合では、これまで築いてきた実績を基盤に、一貫生産・販売体制を更に充実させていくため、既存の加工施設を各に、有機的機能を有する木材加工団地の整備に向けて取り組んでいるところであるが、差し当たっては、十和田湖町が整備を進めている「木材加工施設」の管理運営を受託し、建具及び家具類の生産を開始することとしているほか、生産規模の拡大により製材加工の更なる効率化を図るため、同様の受託方式により、製材工場 (年間素材消費量1万2,000m<sup>3</sup>) の増設を計画しており、近い将来、他に類をみない行政と民間との一体的運営による一大木材加工流通既知の完成が実現することとしている。